

第 1 号議案 : 2022 年度 活動計画

2022 年度 (2022 年 4 月 1 日 - 2023 年 3 月 31 日)

始めに

2022 年 2 月 16 日に、IPA は、創設 15 周年を迎えた。コロナ禍のため、15 周年を祝賀するイベントはできなかった。しかし、IPA は、15 周年の節目を機に、20 周年に向けて、さらなる国際化、研究活動の拡充、組織体制の基盤の強化に向けて新たな歩みを踏み出す。

この機会に、5 つある常設委員会が効果的・効率的に機能するよう、活動計画を委員会の担当業務に合わせて記載することにした。

このような記載により、IPA 会員にとり、IPA の活動する方向がより理解しやすいものとなることを期待している。

2022 年度の各活動計画を以下に記す。

1. 研究委員会

研究委員会では、研究活動の活動、ケースヒストリー・資料の収集、圧入技術の普及の 3 つの活動を中心に行う。

A) 技術委員会

a. 技術委員会 TC-4

テーマ: 圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法

活動期間: 2019~2022 年度

活動: 活動を一年間延長し、最終報告書を作成。

b. 技術委員会 TC-5

テーマ: オペレーターの技量と経験が圧入工法の施工性に及ぼす影響

活動期間: 2020~2022 年度

活動:

- ・アンケート調査 (実施)
- ・データ分析
- ・最終報告書作成・提出
- ・次回の ICPE2024 に向けた論文を準備

c. 技術委員会 TC-6

テーマ: 中国における圧入技術の実態調査と課題の抽出に関する技術委員会

活動期間：2021～2023 年度

活動：技術委員会の活動を継続し、施工事例と現場アンケートを取りまとめる。

d. 新たな技術委員会の設置

研究委員会は、IPA 現地事務局がある国またはその近隣の国に、技術委員会の設立を検討する。

B) ケースヒストリー

a. Case history volume -2 (圧入工法適用事例集)

圧入工法の現場適用事例を掲載する Case history volume -2 を 2022 年度中発刊する。

b. 革新的な圧入工法ケースヒストリーの募集 (テーマ特定型)

- ・ 投稿されたケースヒストリーを審査する。
- ・ 優れたケースヒストリーの著者に論文投稿を促す。
- ・ 投稿された論文を審査する。
- ・ 論文の表彰対象を選出する。

C) 図書館機能 (蔵書)

今後も様々な分野の図書を収集し、特に「杭・杭施工」に重点を置いたユニークな図書室を目指す。

D) 圧入工学セミナー

2022 年度、2023 年度は、圧入工学セミナーを開催する。2022 年度は、テーマを豪雨災害とし基調講演および施工事例紹介を予定している。2023 年度の企画を本年度後半より開始する。日本国内の IPA 会員だけでなく、IPA 会員全体のためになるような適切なセミナー形式を研究委員会で検討する。

- ・ 第 13 回圧入工学セミナー：2022 年（7 月～11 月）開催
- ・ 第 14 回圧入工学セミナー：2023 年 9 月以降開催

2. 事業委員会

事業委員会は、圧入技術普及のための各種出版物やセミナー・会議などを継続的に行っていく。

A) Press-in Handbook (圧入ハンドブック) の多言語化

スペイン語版、ドイツ語版、アラブ語版を発刊する予定。これにより 10 か国語圧入ハンドブックを提供できるようになる。

B) 海外圧入セミナー

圧入ハンドブック普及目的も勘案し、オンライン・オフライン双方の開催を検討。

C) 圧入工法仕様書

- ・目次構成を確定する (2022/4 月まで)
- ・60-70%完成版を作成する。(2022/8 月まで)
- ・2022 年末までに完成。

D) 用語集の策定

ハンドブックの多言語化が進行し、これらの維持・更新のために、さまざまな言語の圧入杭の専門用語のデータベースが重要になる。

- ・テーマ：圧入技術に関する用語集策定
- ・委員長：Chun Fai Leung (IPA 会長)
- ・期間：2 年

E) ICPE2024

シンガポール又はその近隣国で開催予定。実施準備に着手。組織委員会、国際諮問委員会を立ち上げる。最初の案内を配布する。

3. 広報委員会

広報委員会は、IPA ニュースレターやブックレットの発行を継続するとともに、会員が利用できるデジタルコンテンツの充実を図る。

A) IPA ニュースレターの定期配信

IPA ニュースレター編集委員会は、今後も 3 か月ごとにニュースレターを発行し、日本以外の現地人局からの記事も掲載する予定。

B) IPA ブックレット 2：杭基礎の発刊

Newsletter に掲載していた特別寄稿をまとめた小冊子を 2022 年度に発刊する。

4. 表彰委員会

今後、ICPE2024 での受賞候補者の選出や、若い世代を対象とした賞の新設などの準備を進めていく予定。

A) ICPE2024 論文及び施工事例の収集

ICPE2024 での表彰を念頭に、候補となる論文及び施工事例の収集を始める。

B) 若手表彰制度

若手表彰制度の可能性を検討する。

5. 総務委員会

総務委員会は、日常業務を処理し、他の常設委員会の調整を行う。また、国際的なネットワークの構築や、個人・法人を問わず IPA 会員の増強に努める。

A) 国際ネットワークの構築

- a. 海外に JPA のような業界団体を設立が可能か検討を開始する。
- b. 若手研究者・エンジニアに IPA 研究活動等に参加してもらい、ネットワークを広げるとともに人材育成に貢献する。
- c. 各現地事務局（Regional Office）において、地域副会長及び地域担当会員が、IPA のネットワークを拡大する活動を促進する。
- d. 会員が気軽に交流できるウェブ上のフォーラム設置を検討する。

B) 会員増加への取組み

- a. 特典付与、現場見学招待など、国内外の学生に IPA へ参加してもらおう方策を検討する。
- b. 法人会員増加のための方策を検討する。

第 2 号議案：2022 年度予算

予算書 2022年度 (2022.4.1 - 2023.3.31)

(単位: 円)

項 目	2021年度収支	2022年度予算	備 考
事業活動収支			
1 事業活動収入の部			
① 会費収入			
個人正会員年会費	7,150,000	7,150,000	
法人会員年会費	7,300,000	7,100,000	
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
研究受託費	0	0	
書籍販売	5,569,500	5,100,000	圧入設計・施工指針 2020年版(第2刷)等
雑収入	4,206	200	
事業活動収入計	36,023,706	35,350,200	
2 事業活動支出の部			
① 会議・セミナー関係			
第2回 国際会議 ICPE2021(2021.6 開催予定)	1,000,000	0	
海外セミナー(Handbook)	0	500,000	準備・開催費(台湾、インドネシア、中国を予定)
② 出版関係			
圧入工法設計・施工指針 改訂(2020年版)	4,147,331	0	
Press-in Handbook(英) 改訂(2020年版)	1,918,261	0	
Press-in Handbook(他)	7,255,123	5,000,000	印刷・編集費等
Case History Volume 2	77,001	800,000	電子版のみ
IPA Newsletter	711,344	250,000	編集費等
サイレントバイラーの歴史	734,800	0	
小冊子シリーズ II. 杭基礎	0	500,000	印刷・編集費等
その他(ICPE2021論文集 他)	1,155,000	0	
③ 研究関連			
理事会・運営委員会活動費	0	5,100,000	理事会／運営委員会の開催等
研究委員会(技術委員会)活動費	1,000,000	500,000	技術委員会TC4, TC5, TC6および新規研究活動
圧入仕様書	0	500,000	編集等活動費
表彰関係	125,840	0	
図書館機能	1,253,221	1,400,000	書籍購入、図書館システムの保守、動画収集(施工事例)等
その他(調査・他学会参加費)	0	500,000	現場取材費、他学会参加費等
④ 管理関連			
15周年記念式典	363,000	500,000	開催費等
情報システム関連費	1,666,698	2,160,000	ウェブサイト・メールサーバー維持管理、論文システム導入費用等
会員管理	0	20,000	会員証発行等
印刷費用(書籍関連除く)	60,026	50,000	学会案内等(書籍関連除く)
郵送費(国内外)	241,925	250,000	
通信費	95,529	100,000	電話代
理事報酬	10,968,810	10,970,000	
賃借料	3,284,324	3,310,000	事務所家賃・複合機の賃借料等
契約外注費	1,641,204	1,650,000	税理士報酬等
支払手数料	384,382	300,000	銀行手数料等
事務用品費	204,940	120,000	
雑費	299,183	230,000	
事業活動支出計	38,587,942	34,710,000	
事業活動収支差額	(2,564,236)	640,200	
前期繰越収支差額	14,493,324	12,482,816	
当期収支差額	(2,564,236)	640,200	
過年度収支修正	553,728		
次期繰越収支差額	12,482,816	13,123,016	

第 3 号議案: 理事・監事の選任

指名委員会^(注1) は定款 第 4 章 12 条に基づき、以下の 16 名を 2022 年度－2023 年度の理事として推薦する。※再任、新任の順に掲載。

理事（再任）2022 年度－2023 年度:

氏名	組織	国／地域
Chun Fai Leung	シンガポール国立大学 名誉教授	シンガポール
松本 樹典	金沢大学 名誉教授	日本
David White	サウサンプトン大学 教授	イギリス
日下部 治	東京工業大学 名誉教授	日本
菊池 喜昭	東京理科大学 教授	日本
Pastsakorn Kitiyodom	地盤・基礎エンジニアリング (GFE) 副社長	タイ
Ramin Motamed	ネバダ大学リノ校 准教授	アメリカ
寺師 昌明	株式会社技研製作所 顧問	日本
Vu Anh Tuan	レー・クイ・ドン工科大学 上級講師	ベトナム
楊 磊 (Yang Lei)	上海隧道工程股份有限公司 副総裁	中国

理事（新任）2022 年度－2023 年度:

氏名	組織	国／地域
Dr. Majid Ghayoomi	ニューハンプシャー大学 准教授	アメリカ
妙中 真治	日本製鉄株式会社 技術開発部 鉄鋼研究所 鋼構造研究部 室長	日本
上野 勝利	徳島大学 准教授	日本
Dr. Rui Wang	清華大学 准教授	中国
Dr. Mark Albert H. Zarco	フィリピン大学・ディリマン校 教授	フィリピン

監事（新任）2022 年度－2023 年度:

氏名	組織	国／地域
田内 剛	株式会社技研製作所 執行役員	日本

※上記の新任理事については、別添資料に略歴を掲載。

注：指名委員会^(注1)は 付属定款の第 4 項にて規定。

備考：第 5 号議案は 16 名の一括承認形式です。

コメントがある場合は会員サイトの投票ページにあるコメント欄に記入願います。

理事候補者（新任）1：

氏名 Dr. Majid Ghayoomi / マジッド・ジャオミ
現職 准教授
土木・環境工学部
ニューハンプシャー大学
国籍 イラン

学歴

2011 コロラド大学ボルダー校土木工学博士課程修了、Ph. D.
2006 シャリフ工科大学大学院土木工学修士課程修了、工学修士
2004 テヘラン大学工学部土木工学科卒業、工学士

研究・受賞等

2021 ACS PRF New Direction Award
2018 Young Member Presidential Lecturer (Bright Spark Lecturer)
Award (国際地盤工学会)
2015 アメリカ土木学会 ExCEEEd Fellow
2010 Honorable Mention for the Best Paper in ASCE conference
(Geo-Florida 2010) アメリカ土木学会
2004 銅賞 Iranian National Graduate Civil Engineering Olympiad

職務経歴

2018－現在 准教授
ニューハンプシャー大学
2012－2018 助教
ニューハンプシャー大学
2011－2012 学部長
東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻

保有資格等

P.E. (技術士) ニューハンプシャー州／アメリカ

理事候補者（新任）2：

氏名 妙中 真治／たえなか しんじ
現職 室長
日本製鉄株式会社 技術開発部
鉄鋼研究所 鋼構造研究部
国籍 日本

学歴

2014 西オーストラリア大学大学院土木工学博士課程修了、Ph.D.
1998 京都大学大学院工学研究科（土木工学）修士課程修了、工学修士
1996 京都大学工学部地球工学科（土木工学）卒業、工学士

研究・受賞等

2018 ICPE 優秀論文賞、国際圧入学会（IPA）
2017 技術開発賞、地盤工学会（JGS）

職務経歴

2021－現在 室長
日本製鉄株式会社 技術開発部
鉄鋼研究所 鋼構造研究部
2017－現在 特任准教授
金沢大学
2017－現在 客員講師
京都大学
2018－2021 上席主幹研究員
2012－2018 主幹研究員
2001－2012 研究員
日本製鉄株式会社 技術開発部
鉄鋼研究所 鋼構造研究部
1998－2001 エンジニア
日本製鉄株式会社 設備技術開発センター土木建築技術部

理事候補者（新任）3：

氏名	上野 勝利 / うえの かつとし
現職	准教授 徳島大学
国籍	日本

学歴

2001	博士(工学) (東京工業大学)
1991	北海道大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻修了、工学修士
1989	北海道大学工学部土木工学科卒業、工学士

職務経歴

2013－現在	准教授 徳島大学大学院
2019－2021	学術部会長 国際圧入学会、ICPE2021 組織委員会
2017－2018	学術部会長 国際圧入学会、ICPE2018 組織委員会
2006－2013	助教授 徳島大学
1998－2006	専任講師 徳島大学
1991－1998	助手 宇都宮大学

理事候補者（新任）4：

氏名	Dr. Rui Wang／ルイ・ワン
現職	准教授 清華大学
国籍	中国

学歴

2014	清華大学大学院土木工学系地盤工学博士課程修了、Ph. D.
2012	カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）土木環境工学特別研究生
2009	清華大学土木工学系流体工学科卒業、工学士

研究・受賞等

2020	Excellent Young Scientists Fund Program（中国地盤工学会） ISSMGE TC203 2020 Young Researcher Award（国際地盤工学会） Bright Spark Lecture Award（同上）
2018	国家科学技術奨励賞（中国）
2016	優秀論文賞 - 三等賞（中国土木学会）
2010、2008	国家第一種奨学生（中国）
2007、2006	
2004	優秀論文賞 国際会議“Geoshanghai 2010”（中国）

職務経歴

2021－現在	准教授 清華大学
2018－現在	副事務局長 中国地盤工学会
2017－2021	助教 清華大学
2014－2017	博士研究員 清華大学
2015－2015	客員研究員 ローレンス・リバモア国立研究所（カリフォルニア州）
2014－2015	客員研究員 カリフォルニア大学デービス校
2009－2014	大学院研究生 清華大学

理事候補者（新任）5：

氏名	Dr. Mark Albert H. Zarco / マーク・アルバート H. ザルコ
現職	教授 土木工学部土木工学研究所地盤工学グループ フィリピン大学・ディリマン校
国籍	フィリピン

学歴

1993	バージニア工科大学大学院地盤工学博士課程修了、Ph.D.
1987	フィリピン大学ディリマン校土木工学修士課程修了、工学修士
1985	フィリピン大学ディリマン校工学部土木工学科卒業、工学士

研究・受賞等

2008、1997	優秀研究者賞、UP Engineering R&D Foundation（フィリピン）
2001	優秀教授賞、UP Engineering R&D Foundation（フィリピン）
1989－1993	フルブライト奨学生（Fullbright Hays）

職務経歴

2009－現在	教授 土木工学部土木工学研究所 フィリピン大学ディリマン校 地盤工学コンサルタント
2006－現在	AMH Philippines Inc.
1994－現在	Advanced Geotechnical Engineering Services R. S. Caparros and Associates
1994－1999	DCCD Engineering Corporation
2009－2018	教授
1996－2000	准教授
1993－1995	助教
1987－1993	講師 理工学部工学科 フィリピン大学ディリマン校

監事候補者（新任）：

氏名: 田内 剛
現職: 管理本部 執行役員
株式会社技研製作所
国籍: 日本

学歴

1994 高知大学理学部数学科卒業、学士（理学）

職務経歴

2020 – 現在 管理本部 執行役員
株式会社技研製作所

2017 – 2020 経理部 部長
株式会社技研製作所

1994 株式会社技研製作所入社